

令和3年度 県立小瀬高等学校自己評価表

目指す学校像	○小瀬型学力を学校教育全体を通して身に付けさせる。 ・生きる力を育み、心身ともに健全で調和のとれた人間形成のできる学校 ・生徒一人一人が確かな学力を身に付け、希望の進路を実現できる学校 ・社会の一員としての自覚を促し、社会規範の涵養を図る学校 ・明峰中とともに、地域に根ざした連携教育の研究を推進し、地域に貢献できる人財を育成する学校			
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況	
<ul style="list-style-type: none"> 3つのコース制により、生徒の興味及び進路希望に応じた教科指導を行うことができた。更に充実させるためには、コースにかかわらず基礎学力の向上を図る必要がある。 進路指導においては、1年次から計画的な指導を行った結果、就職希望者は全員内定し、また国公立大学に卒業生が1名合格した。今年度も生徒全員の進路希望が実現するよう努力する。 バイク通学者が多いのため、毎月バイク点検を行い、安全教育を徹底した。特に、冬季期間において、別途安全講習を行い、危険防止に向け、きめ細かな指導を行う。 コロナ禍ではあったが、生徒の主体的な活動を重視し、生徒達の自己肯定感の向上を図った。球技大会では生徒会や体育委員が中心となって運営することができた。部活動の加入率を高めて、更に学校の活性化を図りたい。 昨年度の連携中学校からの入学者は40%であったが、今年度は63%に増加した。引き続き魅力ある学校作りを促進するとともに、連携中学校及び近隣の中学校へのPRを強化し、本校への志願者を増やすことが急務である。 ICTの活用については、年度当初の臨時休業中に、課題や動画教材の配信を行った。今年度は、外部コンテンツの活用を含め効果的な活用について検討し、電子黒板やタブレット等の活用を図りたい。 	教科指導・学習指導 基礎学力の向上 ICT活用の推進 探究的な学びの充実	<ul style="list-style-type: none"> 漢字、数学、英語の小テストを効果的に実施して学習意欲と基礎学力を向上させる。併せて、「主体的・対話的な深い学び」や探究多岐な学びを充実させる。 生徒が各種技能審査等に挑戦し、合格できるように指導する。 タブレットや電子黒板の活用を推進するとともに、オンラインを含め授業の進め方など、ICTの活用を研究する。 		
	進路指導 希望進路の実現 体験的な学習の充実	<ul style="list-style-type: none"> 自己理解を深めるとともに将来の生き方や職業について考え、自己を生かした進路実現が達成できるよう導く。 キャンパス見学、職場見学、インターンシップなどの体験的な学習を通し社会に適應できる力を育む。 		
	生徒指導 規範意識の向上 あいさつの励行 生徒のメンタル支援	<ul style="list-style-type: none"> 交通事故防止に努める。 毎月服装指導を行う。頭髪をはじめ制服の正しい着こなしを生徒に定着させる。 登下校、授業開始と終了及び清掃時のあいさつの指導を徹底する。 生徒支援を軸にした、柔らかな生徒指導を充実させる。 		
	特別活動 生徒の主体的な活動の促進 キャリア教育的視点を踏まえた特別活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の活動がより主体的になるよう、事前指導を行う。 新入生に入部を勧め、部活動をより活性化させる。 生徒会を主体とした球技大会・文化祭等を実施する。 社会で必要とされるスキルの育成等キャリア教育の視点を踏まえて体験的な行事を充実させる。 		
	連携型中高一貫教育 連携型中高一貫教育の推進 広報と志願者確保の推進	<ul style="list-style-type: none"> 明峰中学校及び近隣中学校、地域社会に積極的に情報を発信し、広報を充実させる。併せて、本校への信頼や関心を高め、志願者の確保に努める。 少子化に対応した連携事業・生徒交流を構築し、教科の各委員会を効率よく機能させる。 交流事業の充実により地域に貢献できる生徒を育成する。 		
	働き方改革 業務の適正化と組織内部の効率性の向上	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍における、ICTの活用や地域協働本部等の地域人材の活用方法の検討を進める。 業務の適正化を図り、組織内の連携を機能させ、効率性・生産性を高め、カリキュラム・マネジメントの充実を図る。 		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
国語	・基礎学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 漢字テスト(50点満点)で合格点(20点)未満ゼロを目指す。さらに年間平均が30点以上を目標とする。不合格生徒には40点を取れるようになるまで指導する。 読む・書く・聞く・話すの4分野バランスよく指導するが、特にコメント力・応答力・聞き取る力が向上するように質疑応答やリスニングなどを取り入れた授業を展開する。 		
	・情報選択能力と問題解決能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が主体的に学び合えるよう、ICTを活用し、プレゼンテーションの機会を設け、作品の構成や情報の編集を通して情報選択能力や問題解決能力の向上を図る。 		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
地歴・公民	・分かりやすい授業の展開	・生徒に興味・関心を抱かせるため、プリントや画像・映像・新聞・ICT(タブレット等)を多く活用しながら授業を展開する。		
	・基礎・基本・一般常識の育成	・身近なニュースや問題、社会人として必要とされる知識を育成し、社会人としての資質を身につけさせる。主権者教育にも力を入れていく。		
	・メディア・リテラシーの育成	・インターネットやテレビなどのメディアから正しい情報を読み取れ、善悪の判断や情報の取捨選択が正しくできる力を身に付けさせる。		
数 学	・基礎的な知識・技能の習得	・基礎的な計算力を身に付けさせるために、年間4回の小テストの実施、その前後でプリント学習や追試験での指導をする。年間を通し多くの問題を解かせ、基本事項を確実に習得する機会を十分に与える。		
	・思考力・表現力の育成	・用語の定義を丁寧に説明する。定理や公式の証明を仮定から結論に至るまで示し、論理の重要性や良さに気づけるよう工夫する。		
	・数学に対する関心や態度の醸成	・問題の捉え方や解答を多くの生徒と共有させ、多様な考え方を理解させる。ICTや視聴覚教材を通し、考えることの面白さを伝え、考察する態度や能力を養う。		
理 科	・理科への関心の深化と、科学的思考力の養成	・身近な事物や現象を科学的に捉えられるように、日常生活に関する現象や物質などを取り上げ、ICTや視聴覚教材の効果的な活用を工夫する。 ・実験や観察を多く取り入れ、結果の予測をさせたり、結果を考察させることで科学的な思考力を伸ばす。		
	・基礎学力の定着	・小テストや課題、レポート等の指導をとおして、一時的な知識の定着だけでなく、継続的な理解の定着を図る。		
保健体育	・運動に取り組むための基本的な態度の育成	・運動実践や生徒間の交流をとおして、運動の学び方を身に付けさせ、公正・協力・責任・参画などの態度を育成する。		
	・運動に親しむための体力及び技能の向上	・体力テストの記録を基に自ら目標をもたせ、主体的に取り組みながら体力の向上を促す。また、さまざまな運動を経験するなかで、ICT等も活用し、基礎的基本的な技能を身に付けるとともに、生涯スポーツにつながるような活動を図る。		
	・健康・安全面の自己教育力の育成	・運動に取り組むにあたり、器具の点検や危険行為の回避など安全面に留意することができるようにする。また、保健の学習をとおして自らの健康管理を適切に改善していく力を身に付けさせる。		
芸 術	・芸術を愛好する心情の育成と豊かな情操の醸成	・音楽については、音楽の基礎となる知識や技術などを習得させ、実際に活用できる能力を身に付けさせる。		
		・美術については、課題を多面的に設定して、幅広く創作活動を体験することで、感じる力、工夫する力、表現する力を養う。		
		・書道については、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。		
外国語	・基礎学力の定着	・ICTの活用を含め、基礎学力の定着を図るための指導を工夫する。		
	・英語検定受検の奨励と支援	・英語検定試験の受験を勧め、その指導を通じて英語力の向上を図る。		
	・コミュニケーション能力の向上	・英語学習を楽しみながら、コミュニケーション能力の向上を図る。		
家 庭	・家庭科目に対する生徒の意欲・関心の増進	・身近な事例を取り上げ、ICTや視聴覚教材の効果的な活用・教材の工夫に努め、興味・関心をもって学習できるようにする。		
	・基礎力の定着	・課題等を定期的に提出させ、基礎学力の定着を図る。 実験・実習等を行うことにより、科学的に学び、基礎技術力を身に付けさせる。		
情 報	・情報化社会の理解とモラルの向上	・著作権やコンピュータ犯罪等について身近な事例を取り上げ、興味・関心をもって学習できるようにする。 ・モラル意識を持ってインターネットを活用し、調べ学習を行う。		
	・表計算ソフトでの作業能力の習得	・実習時間を十分に確保し、表の作成や、関数の理解を通して実際の場で活用できるようにする。		
	・検定試験の合格率アップ	・実習と講義を効率よく併用することにより、基本的学習事項が身に付くようにさせるとともに、情報処理、ビジネス文書等の各種検定に合格させるようにする。		

※評価規準： 5:極めて高い達成レベルである 4:高い達成レベルである 3:標準的な達成レベルである 2:やや不十分な達成レベルである 1:ほとんどが不十分な達成レベルである

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
商業	・商業科目に対する生徒の意欲・関心の高揚	・ビジネスの諸活動に必要な文書の作成等を通して、パソコンに対する知識や表現能力を高める。 ・文書作成ソフトや表計算ソフト、プレゼンテーションソフト等を使い、一人一人の技量に応じた技術の習得を図る。		
	・検定試験の合格率アップ	・情報処理検定やビジネス文書、電卓検定等において、早い時期から意識付けをして合格を目指す。		
福祉	・福祉に関する興味・関心の向上	・福祉は介護分野だけではないことに気付かせ、幅広く学ばせるとともに、県や市の資料を活用し、地域についても興味・関心をもって学習に取り組めるようにする。		
	・福祉に関する基本的知識や技術の習得	・单元ごとに章末問題や小テストを実施し、知識や技術の習得を確認する。 ・授業欠席時や知識・技術が合格基準に達しない場合は補講を実施する。		
	・職業教育として質の高い福祉の担い手を養成	・コロナ禍におけるデュアルシステムの課題を検討し、整備していく。また、より専門的な学習や現場実習を通し、専門職種としての意識を高める。 ・現場及び実生活で活用できるよう、専門スキルを身に付けさせると共に、人との関わりを通し、豊かな心や人間性、社会性を育てる。		
教務	・基礎学力の定着	・各教科・各学年が一体となり、漢字テスト・数学小テスト・英語小テストを実施するとともに、事前・事後指導を徹底することで、基礎学力の定着と向上を目指す。 ・各種技能審査の受検を促し、合格に向けて支援する。 ・教師間の相互研修を促進し、生徒が自ら学ぼうとする指導方法の確立を支援する。		
	・教員の校務の実践の支援	・授業支援のため、ICT化を図る。タブレット及び電子黒板の利用を促進する。 ・授業実践のための機器・教材・必要物品の充実・補充を行う。		
	・PTA・後援会活動の充実化	・各行事の内容を充実させると共に、案内を迅速に行い、参加しやすいような働きかけをする。 ・保護者や後援会組織との連携を密にし、学校行事等において協力し合える体制をつくる。		
生徒指導	・基本的生活習慣の確立	・挨拶の励行やスマホの使い方など規範意識の向上を図る。 ・制服のきちんとした着用を指導し、段階的指導を図る。 ・特別な支援など、生徒支援の充実を図る。		
	・問題行動の未然防止、早期発見	・校舎内外の巡回指導により、問題行動の未然防止と早期発見に努める。 ・ケータイ・スマホ・ネットの安全利用についてホームルーム等で繰り返し指導する。		
	・交通事故の未然防止と交通マナー指導の徹底	・バイク点検、登校指導を定期的に行い、安全に対する意識の向上を図る。 ・校内徐行・一時停止など交通ルールの遵守・徹底を図る。		
進路指導	・基礎学力の向上と学習の習慣化	・放課後のドリル学習を実施し、基礎学力の定着を図る。 ・模擬試験を活用し適正な進路選択をする。資格試験を意欲的に取り入れスキルを上げる。		
	・進路希望の実現	・個別指導・進路相談を通して、それぞれの生徒に合った進路を実現させる。 ・公務員試験対策の研究、国公立大進学支援の研究を行い、指導に生かす。 ・職場見学やインターンシップなどの体験的な学習を行う。また、オープンキャンパスへの積極的な参加を促す。		
	・早期離職の防止対策	・生徒や保護者に対し、適切な情報や資料を提供するとともに、職員間での進路情報を共有する。 ・「進路のてびき」の発行や外部機関紙の提供をしながら、個々の生徒に応じた指導を行う。 ・応募前職場見学を複数回実施し、生徒に適した職場への就職を斡旋する。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
特別活動	・部活動の活性化	・部加入率と継続率を高めるため、教員同士が協力し部活動の指導にあたる。 ・校内放送や本校のホームページを有効に活用し、広報活動に努める。		
	・学校行事の充実	・既存の方法にとらわれず、全校生徒が意欲的に取り組める行事運営を工夫する。 ・様々な生徒が活躍できる場を多く設ける。		
	・生徒会活動の活性化	・学校行事に積極的にに関わり、自主的に活動できるような働きかけを行う。 ・生徒が自ら挑戦できる機会を増やし、リーダーとしての資質を高める。		
	・未来創生学の実施	・実施の目的を生徒と共有し、生徒自身が自らの成長を認識できるよう働きかける。 ・生徒の実態にあわせて教材や授業内容を見直しつつ実践し、本校に適したカリキュラム形成を目指す。		
	・体育後援会との連携	・体育後援会と連携を図り、学校行事等において協力しあえる体制を整える。		
	・キャリア・パスポートの活用	・個々の活動を整理し、キャリア教育を推進する。		
保健厚生	・校内環境の整備	・毎日の清掃をていねいに行うことにより、校内の環境美化を意識させる。 ・安全管理のため毎月安全点検を行い、修繕が必要な箇所には迅速に対処する。		
	・生徒の健康観や安全能力を育成	・「保健だより」や資料等を発行及び掲示し、健康管理や怪我の対処、感染症等の情報発信を定期的に行う。また、地域と連携して防災避難訓練を実施し、安全能力の育成を図る。		
第1学年	・基本的生活習慣の確立	・遅刻、早退、欠席をしないよう継続的な指導をする。 ・あいさつ、返事、言葉遣い、服装、頭髪をきちんと整える。		
	・学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導を継続的に行う。 ・放課後学習を実施し、基礎学力の向上を図る。 ・基礎学力定着のため、生徒に対し計画的な学習指導を行う。 ・宿題・課題は必ず提出させる。		
	・進路意識の高揚	・LHRを活用し進路意識の啓発を行う。		
	・学校生活の活性化と共に社会性の定着	・学校行事や部活動への主体的・積極的な参加を促す。また、自己の役割を自覚させるとともに集団における健全な人間関係を築かせ、社会性が身に付くようにする。		
	・ICT活用の活性化	・ミライタッチやタブレットの有効活用に努める。		
	・働き方改革	・業務の効率化と平準化を図る。		
第2学年	・基本的生活習慣と生活態度の確立	・遅刻、早退、欠席のないよう継続的な指導をする。 ・礼儀作法(言葉遣い、あいさつ、服装等)をきちんとさせる。		
	・学習態度の確立、基礎学力の向上・進路意識の強化	・正しい授業態度の定着と共に、提出物完成度向上及び提出徹底を図る。 ・OTや放課後学習を通じ、基礎学力の向上を図る。		
	・ICT活用の活性化を図る	・情報処理室やタブレットの有効活用に努める。		
	・問題行動の未然防止	・日頃より生徒とのコミュニケーションを深め、問題行動の未然防止に努める。		
	・働き方改革	・業務の効率化と平準化を図る。		
	・基本的生活習慣確立と社会性の向上	・遅刻、早退、欠席のないよう継続的に指導する。 ・言葉遣い、礼法、服装、頭髪をきちんとさせる。		
第3学年	・学習の習慣化、基礎学力の向上	・授業に臨む姿勢の指導と課題提出を徹底させる。 ・OT、放課後の継続的学習を行う。成績不振者への個別指導を行う。		
	・学校行事等への積極的参加	・学校行事等の目的・意味を十分理解させ、3年生のリーダーシップを発揮させる。		
	・適切な進路選択とその実現	・生徒・保護者との連絡・相談を密にし、適切な進路の選択を図る。 ・学年全体で進路指導にあたり、指導と事務処理に遺漏の無いようにする。		
	・ICTの活用	・ミライタッチを有効活用する。		
	・働き方改革	・業務の効率化と平準化を図る。		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題
連携型中高一貫教育	・交流事業の充実	・交流事業を通して、生徒相互や教師と生徒の交流を深める。 ・スポット的授業や相互乗り入れによるTT授業、相互授業参観、部活動の連携等、効果的な交流を図る。		
	・地域貢献活動の充実	・生徒交流事業の充実を図り、地域に貢献できる生徒を育成する。		
	・6年間を見通した教育課程の確認	・中高間で教育課程の系統性を確認し、「一中・一高」を見通した連携の在り方について検討する。		